特別企画　感謝のつどい
荏本孝久教授退職記念

市民と共に七転び八起き
～正しく恐れて、賢く生きる～

日時：2021 年 12 月 17 日（金） 14 00～17 00
会場： 桜木町ぴおシティ６階
【サクラリビング】 第1研修室

神奈川大学工学部教授
「防災塾・だるま」名誉 塾長
荏本孝久

はじめに

- 「防災塾・だるま」の設立経緯
  - 1995年阪神・淡路大震災の被災地の体験
  - 地域特性の共通の理解が不十分

- 「防災塾・だるま」の活動
  - 地震工学会での講演（PPT）
  - 「だるま」と「文科省PJ＆人と智ネット」
  - それ以降の活動として

    現地視察・対話　⇒　報告会＋討論

    実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座

    講演活動

    - 2009年、2016年、2021年

→　変化を見る

2014年
日本地震工学会講演会

地域防災活動の重要性
「防災塾・だるま」の紹介

市民と共に七転び八起き

主催　公益社団法人日本地震工学会

人と自然と歴史に学ぶ防災論
－楽しく学び賢く防ぐ－

2014年2月7日（金）13:00～16:30
場所：パシフィコ横浜・アネックスホール2階203会場

神奈川大学工学部教授
『防災塾・だるま』塾長
荏本孝久

はじめに

●1995年阪神・淡路大震災の教訓
- 地域防災力の重要性の認識
- 自助・共助・公助の普及
- 防災情報の共有化と人的ネットワーク構築

●首都圏直下を震源とする大地震発生の切迫性

●地域社会の変質
- 無防備・無関心な社会　→　困惑社会（3.11以降）

●地域防災力の向上
- 防災まちづくりを実践できるような防災情報の共有化
- 人的ネットワークの構築

●地域防災活動の支援
- 「防災塾・だるま」の設立
- 「防災塾・だるま」の活動

●「市民と共に七転び八起き」活動の必要性と重要性

災害リスクマネジメントの重要性

阪神・淡路大震災の教訓－都市型震災の複合性に関連して－

- 神戸市を中心に膨大な人的・物的被害が発生した
- ハードな施設で構成されたインフラストラクチャーの被害
- 都市機能がマヒし，市民生活に長期的な支障をきたす
- コミュニティーの集まりで成り立つ地域社会の崩壊を招く

阪神・淡路大震災の教訓－ソフトな震災対応に関連して－

- 被災直後の近隣の崩壊家屋からの死傷者の救出
- 住民の協働による消火活動による延焼阻止
- 被災した住民が身を寄せた避難所の運営
- 復旧・復興過程における市民やボランティアの支援
- 「まちづくり協議会」におけるコーディネーターの活躍
- ソフトな観点からの地域住民の自助・共助の重要性

震災に大きく関連する社会構造の変化

●都市化の急速な進展：　人口の密集、危険地域への居住地の拡大、高層ビル・地下街の発展

⇒　災害に強い都市構造の形成、防災的な土地利用への誘導、危険地域等の情報公開

●高齢化の急速な進展：　高齢者（とりわけ独居老人）、障害者、外国人など災害弱者の増加

⇒　防災知識の普及、災害時の情報提供、避難誘導、救護・救援対策

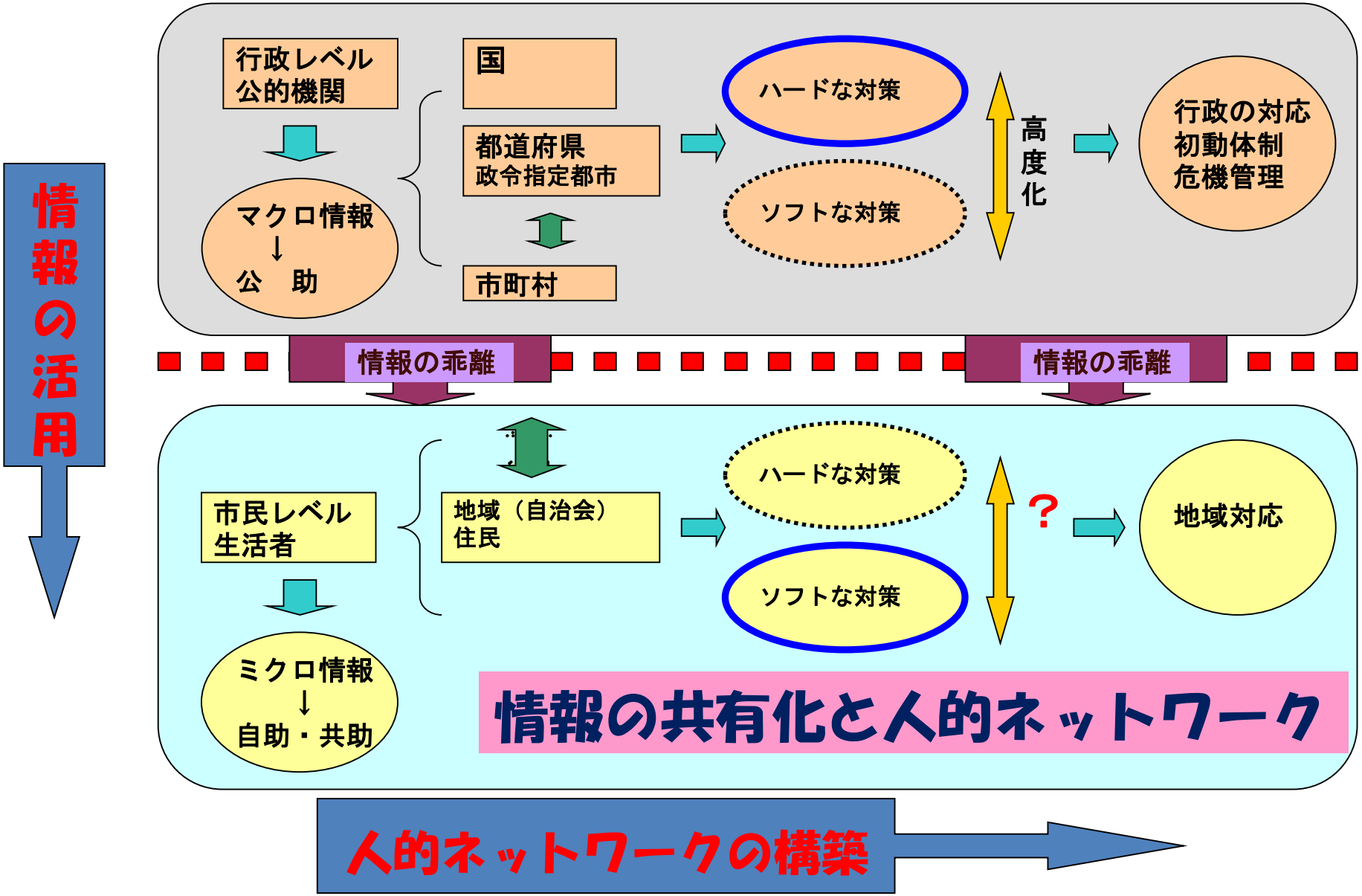
●情報化の急速な進展：　ライフライン、コンピュータ、情報通信ﾈｯﾄﾜｰｸ、交通ﾈｯﾄﾜｰｸ等への依存

⇒　施設の耐震化、補完的機能の充実

●住民意識および生活環境の変化：　近隣扶助の意識の低下

⇒　コミュニティー・自主防災組織等の強化、防災訓練・防災思想の普及

社会構造の変化と情報の乖離



ハード・ソフト融合型の災害リスクマネジメント

文部科学省・学術フロンティア研究計画（2006年－2009年度）

「災害リスクの軽減を目的としたソフト・ハード融合型
リスクマネジメントの構築に関する研究」

主な研究目的：

ソフトな防災対策とハードな防災対策を合わせて災害リスクを評価・認識してリスクマネジメントを実践できる手法を開発すること

主な特色：

ソフトな防災対策を定量的に評価するための手法の検討が必要不可欠

・地域の自主的な防災活動に関する情報の収集・整理
・情報の共有化および人的ネットワークの構築
・ソフトな防災対策に関しての実証的かつ実践的な調査・研究活動が重要

学術フロンティア研究の概要

我国では、地震・台風災害を始めとして自然災害が多発する。自然災害は多岐に亘り、災害の起因である自然現象と災害の誘因となる社会環境の組合わせで決まり、ハードな観点からの災害評価の問題とソフトな観点からの社会システムの現況評価の問題に関するバランスの配分によってリスクを評価して、効率的に防災性を高めて災害軽減化を図る必要がある。そのためには、**ハードとソフトな対応を考慮したリスク評価による適切なマネジメント**が重要となる。本研究は、これらを統合化する技術を開発することを目的とするもので、災害軽減化のためのリスク評価による有効なリスクマネジメント手法の構築と実践化技術の開発を実施する。

■研究領域1：
自然環境および社会環境に関わる情報抽出と情報統合化手法の構築

■研究領域2：
ハード・ソフトの防災環境のデータベース化と定量的総合化評価手法の構築

■研究領域3：
実践的防災対策の整理体系化と最適防災戦略の構築

■研究領域4：
自然災害の最適リスク評価手法の構築

■研究領域5：
自然環境および社会環境に関わる情報抽出と情報統合化手法の構築

■研究領域6：
リスクマネジメントシステムの実践的活用方法の開発

文部科学省
「地域防災対策支援研究プロジェクト」

●プロジェクト名：
神奈川県に係る防災研究データベースの活用
を起爆剤とした官学民連携による地域防災活動活性化研究

●2013～2015（3年間）
●研究代表者：防災＆情報研究所・高梨成子

官学民への
アンケート調査
（3ケ年）

→

防災研究に関する
データベース
の構築

→

情報公開
地域防災活動
への利活用

『防災塾・だるま』研究分担

防災・減災中核研究拠点の形成

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクトへの申請
申請中・2015～2019(5年)
研究代表者：神奈川大学・荏本孝久

プロジェクト名：
専門知と経験知の融合による大規模災害に関する
防災・減災中核研究拠点の形成

●研究テーマ①
専門知・経験知の融合による防災・減災システムの構築
と見える化に関する研究

●研究テーマ②
大規模災害における社会的共通基盤のリスク認識に関する研究

●研究テーマ③
知の融合によるコミュニティー・リスク・マネジメント
の構築に関する研究

防災・減災中核研究拠点の形成

防災・減災中核研究拠点
（大学・防災センター）

研究テーマ①
大震災に関連する社会・
経済的課題の検討

研究テーマ②
大震災に関する社会的
共通基盤の課題の検討

大規模災害に関する
専門知・経験知
の融合

・研究者
・技術者
・行政職員
・企業従業者
・住民
・NPO職員

新しい防災・減災システムの検討

研究テーマ③
コミュニティー・リスク・マネジメントの構築

防災・減災社会の備え

『防災塾・だるま』参画

「防災塾・だるま」設立の経緯と経過

阪神・淡路大震災の教訓を受けて、「地域の防災活動は来るべき大地震の際の減災に大きく寄与する」と認識が高まり，このような主旨で，

①2005年6月神奈川区主催の講座「地域防災まちづくり－全７回－」の開催

・講座の終了後，受講生などを中心に「防災・まちづくり談義を楽しむ会」が自主的に発足.
・大学・行政・企業・自主防災組織・ボランティア組織の方々　を交えた会
・防災情報の共有化をテーマにして，月１回（平日の夜）のペースで定例会開催

②2006年6月「防災塾・だるま」が発足

・「防災・まちづくり談義を楽しむ会」で交わされた意見や課題を実践活動に
・「防災塾・だるま」が発足、実践的な講座の企画検討の開始

③2006年10月「防災塾・だるま」主催の防災に関するより実践的な講座の開催

・「実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座」連続10回シリーズの開催
・受講生50名

④2007年4月「防災塾・だるま」および「防災・まちづくり談義の会」の定例化

・「防災・まちづくり談義を楽しむ会」を「防災・まちづくり談義の会」に改称

防災まちづくり支援のための講座内容

↓

- 期間：10月～12月（毎週木曜日）
- 時間：14:00～16:00（2時間）

＜2006年神奈川大学生涯学習エクステンション講座＞
テーマ：実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座：
企画「防災塾・だるま」

第１回　実践的防災まちづくり総論
第２回　地域の防災環境を知る
第３回　大震災の対応，復旧・復興の経験を生かす
・阪神・淡路大震災の経験から，防災福祉コミュニティー
・復興まちづくりにおける行政と市民の活動についての教訓
第４回　減災に取り組む防災まちづくり　Part－1
・子育て支援と防災まちづくり
第５回　減災に取り組む防災まちづくり　Part－2
・要援護者，高齢者支援と防災まちづくり
第６回　減災に取り組む防災まちづくり　Part－3
・防災対策や災害対応におけるボランティア活動と防災まちづくり．
第７回　減災に取り組む防災まちづくり　Part－4
・災害に強い建物や市街地の防災まちづくり
第８回　減災に取り組む防災まちづくり　Part－5
・情報ネットワークと防災まちづくり
第９回　減災に取り組む防災まちづくり　Part6
・防災まちづくり先進地区の活動を紹介
第10回　講座のまとめ
・パネルディスカッション

「防災塾・だるま」の活動目標（1）

ー目標としてー

・地域防災力を高めて維持していくための防災まちづくり

・多様な生活環境を持った人々の繋がりを基本とする人的ネットワーク

・自助・共助・公助を実践するための防災情報の共有化

ー活動としてー

・実践活動に利用できる講座の企画，運営

・市民の立場から「防災まちづくり」に関する行政への提言

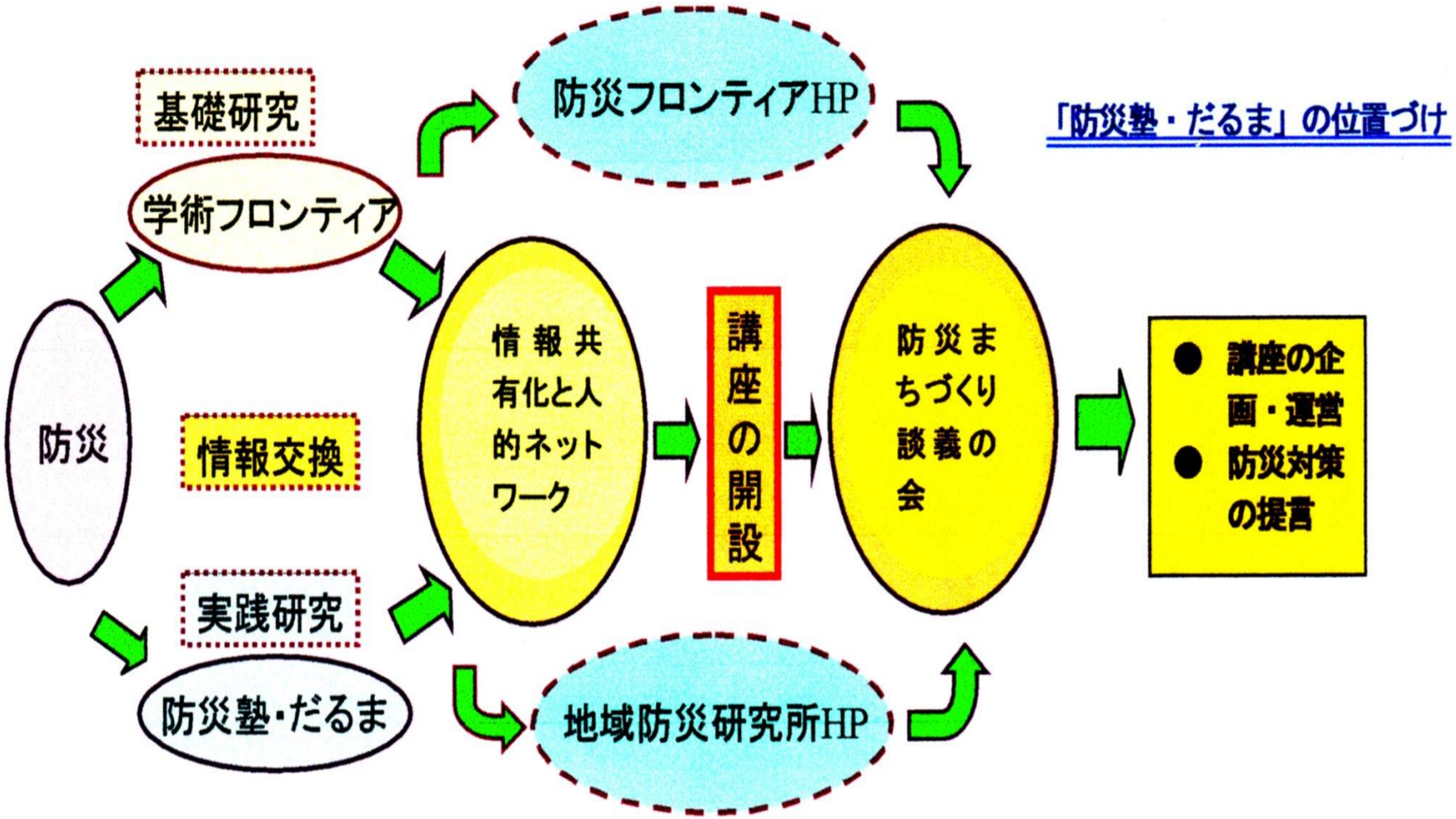
「防災塾・だるま」の活動目標（2）

ー実践としてー

- 秋季の講座の実施（10回）
- 秋季の県西部・県中央地区の講演会
- 「神戸1.17の集い」への参加と交流
- 県西部・中央部地区での講座の開催（連続10回程度）
- 「防災フェア」，「防災訓練」，「防災教育」への支援
- 「防災塾・だるま活動報告書」の作成と公表

「防災塾・だるま」の位置付けと活動内容

2006年－2009年



「防災塾・だるま」の現状と活動内容

2010年－現在に至る　⇒　http://darumajin.sakura.ne.jp/

『防災塾・だるま』の活動のインフレーションと進化

●定期的な講座の開設
- ・会員：138名（2014現在）
- ・組織：役員会（年間の運営方針）
- ・規約（ルール）の設置
- ・会費（年間1,000円）→活動費へ
- ・HPの開設（情報の共有化）
- ・会員相互のネットワーク
- ・被災地の視察・交流（神戸・中越・東北）
- ・会員各自の自主的な活動による情報の提供・交換

『防災塾・だるま』の財産 3氏のインパクト

●行政等からの支援・協力と協働
- ・横浜市安全管理局（現、総務局・消防局）
- ・神奈川県安全防災局
- ・横浜市各区役所
- ・神奈川県各市町役所・役場
- ・社会福祉協議会
- ・神奈川災害ボランティアネット
- ・横浜市立小中学校
- ・神奈川県建築士事務所協会
- ・横浜市商工会議所

『防災塾・だるま』のいろいろな活動

- 『防災塾・だるま』定例会　→　2006～（毎月1回）
- 『防災まちづくり談義の会』　→　2006～（毎月1回）
- 『防災塾・だるま』役員会　→　2008～（毎月1回）
- 『防災塾・だるま』設立の周年記念イベント　→　毎年1回
- 防災機関の見学会（横浜市危機管理センター、神奈川県警察本部etc）
- 実践的防災まちづくりコーディネータ養成講座　→　2006～（毎年秋期）
- 「神戸の集い」への参加　→　2008～（毎年1月17日・神戸市）
- 被災地への訪問　→　随時開催
  - ・阪神・淡路大震災（神戸、淡路島）　→　2008
  - ・中越地震（長岡）　→　2010
  - ・東日本大震災（第1回：岩手・宮城、第2回：石巻・女川）　→　2012
- 平塚市市民協働事業への協力（平塚防災まちづくりの会）　→　2011～
- 防災ギャザリングへの協力　→　毎年1月
- 足柄上郡大井町防災講座への協力　→　2007、2013
- 横浜市私立港中学校の防災教育への協力　→　2013～
- 横浜市中区防災事業への協力　→　2013～
- ゲーム・クロスロードの指導・普及　→　2007～（随時）
- ゲーム・J-DAGの開発・普及　→　2012～（随時）

「神戸のつどい」参加報告
（2011年1月16日～18日）

1. 阪神高速株式会社「震災資料保存館」
2. 芦屋市危機管理室訪問
3. 松山氏（元神戸市職員）と会食
4. 「神戸のつどい」参加
5. 「神戸市震災記念公園」視察
6. 神戸大学「都市安全センター」「震災文庫」訪問

『防災塾・だるま』企画・講座

KU 神奈川大学

2013年 後期ガイド

生涯学習・エクステンション講座

公開講座のお知らせ
文化・教養

KUポートスクエア
神奈川大学 みなとみらい エクステンションセンター
■KUポートスクエア ■横浜キャンパス ■湘南ひらつかキャンパス

The 85th Anniversary 85th KANAGAWA UNIVERSITY

実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座

KUポートスクエア

＜メインテーマ＞地域にいかす「防災・減災の知識・知恵」を学ぶ

本講座は神奈川大学と「防災塾・だるま」が共同で企画し、提供するものです。
※「防災塾・だるま」とは"七転び八起き"からネーミングされました。あらゆる防災活動を通じて会員相互の防災力の向上を図るとともに、防災に関わる情報共有化のためのネットワークを構築し、地域社会の防災まちづくりに貢献することを目的とした市民防災の活動グループです。

内容

本講座「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」の初回は2006年に開催され、今年で8回目を迎えました。

1923年の関東大震災から90年、1995年の「阪神・淡路大震災」から18年が経ちましたが、その後、幾つもの大震災が発生し、2年前の東日本大震災では多くの犠牲者をだしました。その間、国も市も災害に対する被害想定の見直しを迫られ、今年になって、「横浜市防災計画」の改訂版が発行されました。横浜市は防災対策を大幅に見直し、各地域はそれに基づき、「住民を守る体制の再構築」が求められています。そして、さらに多くの市民の協力が要求されています。

この講座は、「自分達の町は、自分達で守る」防災・減災活動に、貢献できる人材の育成を目指します。

定員	50名 ※先着順に受け付け、定員に達し次第締め切ります。
会場	KUポートスクエア
申込期間	9／3(火)～10／10(木) ※申込期間後も定員に余裕がある場合は、受け付けます。 ※定員に満たない場合は、開講できないことがあります。 ※お申し込み・お問い合せはp.58をご覧ください。
受講料等	5,000円(4,500円) ※受講料には、資料代および消費税が含まれます。 ※（ ）内の受講料は、神奈川大学生・卒業生等および協議会加盟大学在学生（p.6）に適用される料金です。 ※受講者区分が一般で、前年度、生涯学習・エクステンション講座の受講歴（一部講座除く）がある方は、受講料を5%割り引きます。

講座日程 ※講師の緊急な都合などにより日程等を変更する場合があります。 ［開講時間］ 13:30～17:00 全6回

■総合司会：成松 洋、山田 美智子

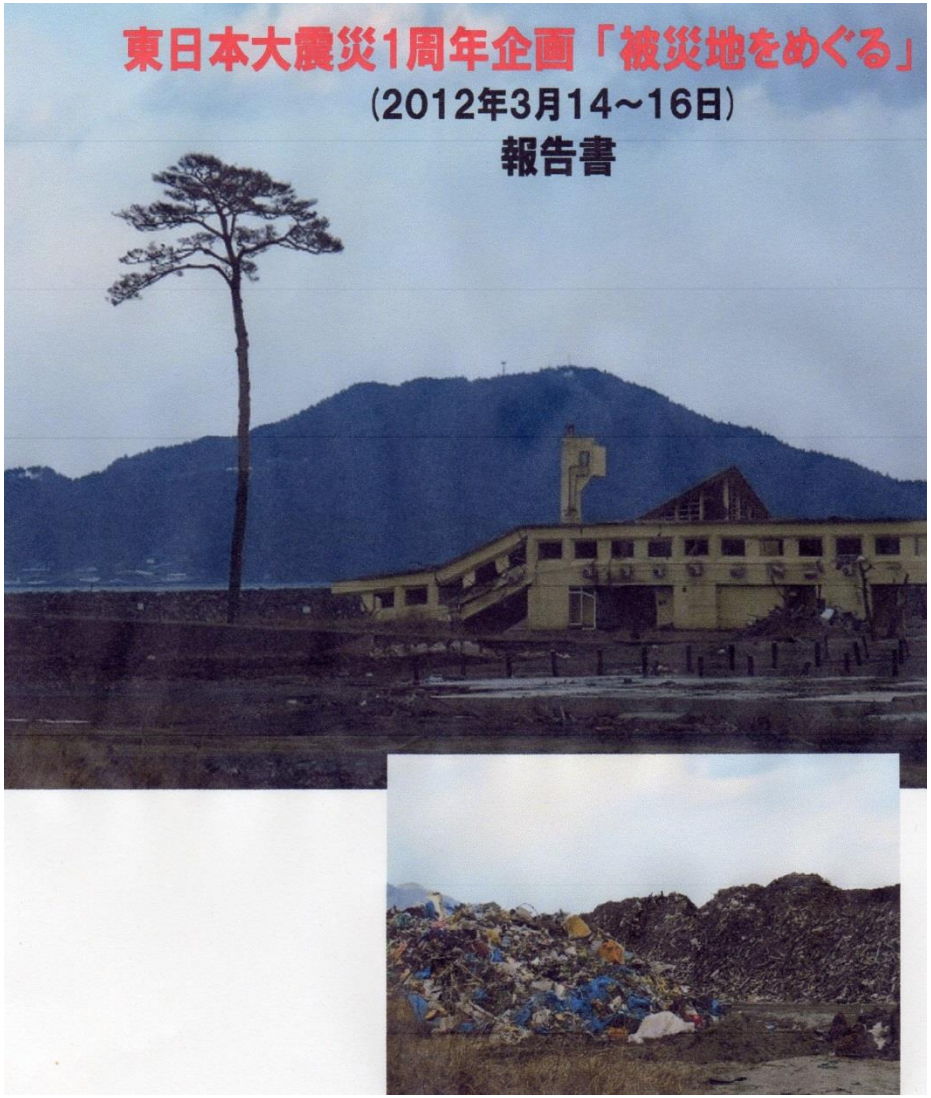
回	開講月日	担当講師	テーマ／概要
1	10／24(木)	荏本 孝久	近々くると想定されている「首都圏大地震の被災規模とひっ迫性」を学ぶ 前半：大地震はどんな被害をもたらすのか、何時頃来ると想定されているか、を学ぶ。 後半：受講生の自己紹介を含め、地域の防災・減災活動の現状を話し合う。
2	10／31(木)	佐藤 榮一	被災地から学び、地域に活かす。 前半：被災地で聞いたり体験した事の説明から、それを地域で活かすことを学ぶ。 後半：受講生は被災地の状況を聞いた後、わからない事、疑問に感じた事を、質問を交え体験者から直に聞く。
3	11／ 7(木)	小野寺 勝	横浜市の「防災計画」を学ぶ 前半：多くの災害から被害想定を練り直し、市民を守る為に改訂した「防災計画」を説明する。 後半：「防災計画」を聞いた後、質疑応答・意見交換会にて内容を習熟する。
4	11／14(木)	白田 克雄	地域での防災活動実践者の話を聞き、地域に活かす術を学ぶ。 前半：地域の防災活動の現状（自主防災組織の体制、活動内容等）を説明する。 後半：自分の地域と何処が違うか、どうしたら防災活動を充実できるか等を質疑応答を交え学ぶ。
5	11／21(木)	片山 晋	命に関わる発災直後の1時間について考える。 前半：「発災直後の1時間」に、①何が起こるか、②我が地域で何をすべきか、③自分はどう行動するか、などを学び、J-DAG（発災直後の行動ゲーム）を通して模擬体験する。 後半：ゲーム後の意見交換会にて、我が地域の取り組みについて考える。
6	11／28(木)	高松 清美 田中 喜世美 山田 美智子	首都圏大災害を想定し、対策を学ぶ。 前半：①かならず来る「首都圏大災害」の想定される被害を学ぶ。 ②自分の地域で、防災活動に参加し地域貢献をする手段を探る。 後半：①講座全体の講評 ②アンケート記入 ③講座修了証書授与

講師紹介

佐藤 榮一（消防科学総合センター（一財）防災図上訓練指導員）／小野寺 勝（横浜市総務局危機管理室危機対処計画課長）／荏本 孝久（神奈川大学工学部教授、防災塾・だるま塾長）／池田 邦昭（まちづくりネットワーク緑役員）／白田 克雄（元南区六ッ川地区連合防災部長（チーム防災六ッ川代表）、だるま理事）／片山 晋（防災を考える会・磯子代表、だるま理事）／高松 清美（NPO法人神奈川県災害ボランティアネットワーク理事、だるま理事）／田中 喜世美（神奈川区白幡地域防災拠点運営委員、だるま理事）／山田 美智子（ひらつか防災まちづくりの会役員、だるま理事）／成松 洋（都筑災害ボランティアコーディネーター、だるま理事）／伊東 幸保（神奈川区二ッ谷町会防災部長、だるま理事）

開催地：KUポートスクエア／横浜キャンパス／湘南ひらつかキャンパス

『被災地をめぐる』報告書



『防災塾・だるま』HPより

目次

	ページ
I. 「被災地をめぐる」・・・・荏本塾長	1
II. 経過 “皆さんの思いで実現！”・・・・池田さん	3
III. 「被災地をめぐる」企画概要・・・・佐々木さん	4
IV. 活動報告	
第1日目 3月14日(水)「岩手」・・・・田中(晃)さん	5
普代～田野畑～田老～宮古～山田町	
第2日目 3月15日(木)「岩手～宮城」・・・・小原さん	9
山田町～大槌～釜石～大船渡～陸前高田～気仙沼	
第3日目 3月16日(金)「宮城」・・・・鶴谷さん	13
気仙沼～南三陸町～松島～名取	
V. 交流会報告	
山田町交流会 3月14日(水)・・・・片山さん	16
気仙沼交流会 3月15日(木)・・・・添田さん	19
VI. 岩手県庁復興局訪問レポート「岩手県の被害とまちづくりの再構築」・・・・田中(晃)さん	22
VII. 「被災地をめぐる」報告会・討論会(記録)	25
VIII. 「東日本大震災から1年 被災地をめぐる 点と線:百聞は一見に・・・」・・・・池田さん	31

＜資料編＞

1.「東北地方太平洋沖地震に係る人的被害・建物被害状況一覧」(岩手県総務部総合防災室)
2.「平成23年東北地方太平洋沖地震の被害状況と警察措置」 (警察庁緊急災害警備本部)
3.「大津波からの避難の実態調査・・何故多くの人が亡くなったのか?」
(東日本大震災津波避難合同調査団)
4.「沿岸8市町村2500人避難・本県に一時津波注意報」 (岩手日報2012年3月15日朝刊)
5.「道路の『啓開(けいかい)』が早い理由について」(国土交通省 東北整備局)

道路の『啓開(けいかい)』:
東日本大震災の災害対応で注目すべき大きな特徴に、広域の津波災害という激甚災害で緊急の災害対応は困難を極め、陸海空からの災害情報を元に陸からのアクセス確保するための「道路啓開」が「櫛の歯」作戦という形で展開されたことがあります。今後、首都圏直下の大震災や西南日本の三連動型巨大地震が発生した際の東京・横浜・川崎などの大都市における災害対応も、この「道路啓開」のオペレーションに大きく依存することは必至だと言われています。

東日本震災被災地訪問（第2回）

釜石～石巻・女川（2012年8月30日～9月2日）

鵜住居
（中学校）

花巻駅～（ＪＲ）
～釜石駅～鵜住居

鵜住居（宝来館）

東日本震災被災地訪問（第2回）

高田松原（陸前高田）

第18共徳丸
（気仙沼）

防災対策庁舎
（南三陸町）

きぼうのかね商店街

被災された方々
との交流

大川小学校（石巻市）

女川町立病院

石巻港
日和山公園より

まとめ

●地域防災力を高める有用な方策

情報の共有化と人的ネットワークの重要性

●継続実施のためのツール開発

・地域の防災教育プログラムの開発

・リスクコミュニケーションの推進

（コーディネータとしての人材育成）

・地域防災活動の自己診断カルテ

・防災教育のテキストの開発

・地域の「防災マップ」作成ツール

－今後の課題として－

・情報と人の交流の場の確保（内容差と個人差）

・高度な情報の継続的な学習と習得（実践的）

・共有すべき情報の内容と公開（座学か実学か）

2009年
危機管理セミナー

地震発生の切迫性
地域防災活動の重要性

危機管理セミナー

地震と地域防災力について

平成21年3月26日

神奈川大学大学院工学研究科建築学専攻
教授　荏本孝久

内　容

1. はじめに－横浜市の成長－
2. 大正12年関東大震災の衝撃
3. 最近の震災対策
4. 地震災害危険度の地域間比較
5. 横浜市の防災戦略
6. 自主防災組織の実態
7. リスクコミュニケーションの重要性
8. 「防災塾・だるま」の活動
8. 事前の地域危険度評価の必要性
9. ＰＣＤＡスパイラルアップ
10. まとめ

まとめ

■地震災害の軽減化は事前認識と準備が重要
　・大規模な地震災害のイメージの共有
■地震災害の軽減化は地域の総力戦
　・行政、大学、企業、NPO、自主防災組織
■自主防災活動は、自助・共助の原点
　・「草の根」的な活動が重要
■リーダーの養成が必要
　・必ずしも「自治会の責任者」でなくても良い
■防災情報の共有化と相互連携が重要
　・「防災訓練・防災教育」は繰り返しが必要
■地域の特徴を把握し、住民で共有する
　・オープンな「防災イベント」の開催
■行政機関やボランティア組織との連携が必要
　・地域防災力の向上

2016年
神奈川大学防災フェアー

神奈川県における
地震災害の危険性

神奈川県に想定される
地震災害とその対策

神奈川大学・防災フェアー
防災講演会Ⅱ

平成28年11月18日
横浜キャンパス3号館305教室

神奈川大学工学部
教授　荏本孝久

内　容

■地震の発生場所

海溝型巨大地震と内陸活断層型大地震

■地震災害軽減化に向けて

神奈川県における地震被害想定調査

■これからの防災・減災対策ーまとめー

最近の地震災害

1995/01/17	兵庫県南部地震(M7.3)
2000/10/06	鳥取県西部地震(M7.3)
2001/03/24	芸予地震(M6.7)
2003/07/26	宮城県北部地震(M6.4)
2003/09/26	十勝沖地震(M8.0)
2004/10/23	新潟県中越地震(M6.8)
2005/03/20	福岡県西方沖地震(M7.0)
2007/03/25	能登半島地震(M6.9)
2007/07/16	新潟県中越沖地震(M6.8)
2008/06/14	岩手・宮城内陸地震(M7.2)
2008/07/24	岩手県沿岸北部地震(M6.8)
2009/08/11	静岡沖地震(M6.5)

2011/03/11	東北地方太平洋沖地震(M9.0)
2011/03/12	長野県北部地震(M6.7)
2011/03/15	静岡県東部地震(M6.4)
2011/04/07	宮城県沖地震(M7.2)
2011/04/11	福島県浜通り地震(M7.0)
2013/04/13	淡路島地震(M6.3)
2014/11/22	長野県北部地震(M6.7)
2016/04/14	熊本地震(M6.5)
2016/04/16	熊本地震(M7.3)
2016/10/26	鳥取県中部地震(M6.6)

■1995年阪神・淡路大震災以降
⇒西日本が地震活動期に入ったという認識

↓

■2011年東日本大震災以降
⇒日本全体が地震活動期に入ったという認識

まとめ

これからの防災対策の考え方

■自助・共助の発想⇒公助は期待できない。

・防災計画と防災訓練の充実
・防災知識（学校防災教育など）の普及
・地域社会との連携

■被害想定調査結果の活用

・大学および地域の被害想定（定性的・定量的評価）
・大学および地域の施設の災害リスク評価
・大学におけるBCP（事業継続計画）の策定
・防災センター（準備室）の活動
・大学および地域との連携
・防災情報の共有化による地域貢献

2021年
神奈川大学
後期連続防災講演会

災害の多様性と複合性
急速な社会構造の変容
↓
グロ-バル化社会の危機

3.11東日本大震災10年目の課題と21世紀の災害に備えて
関東大震災百年の節目と「災害の世紀」の防災・減災戦略

グローバルな視点からの防災戦略の重要性
―災害共存社会の必然性―

神奈川大学・後期連続防災講演会
日時：2021年11月27日（土）
オンライン講座

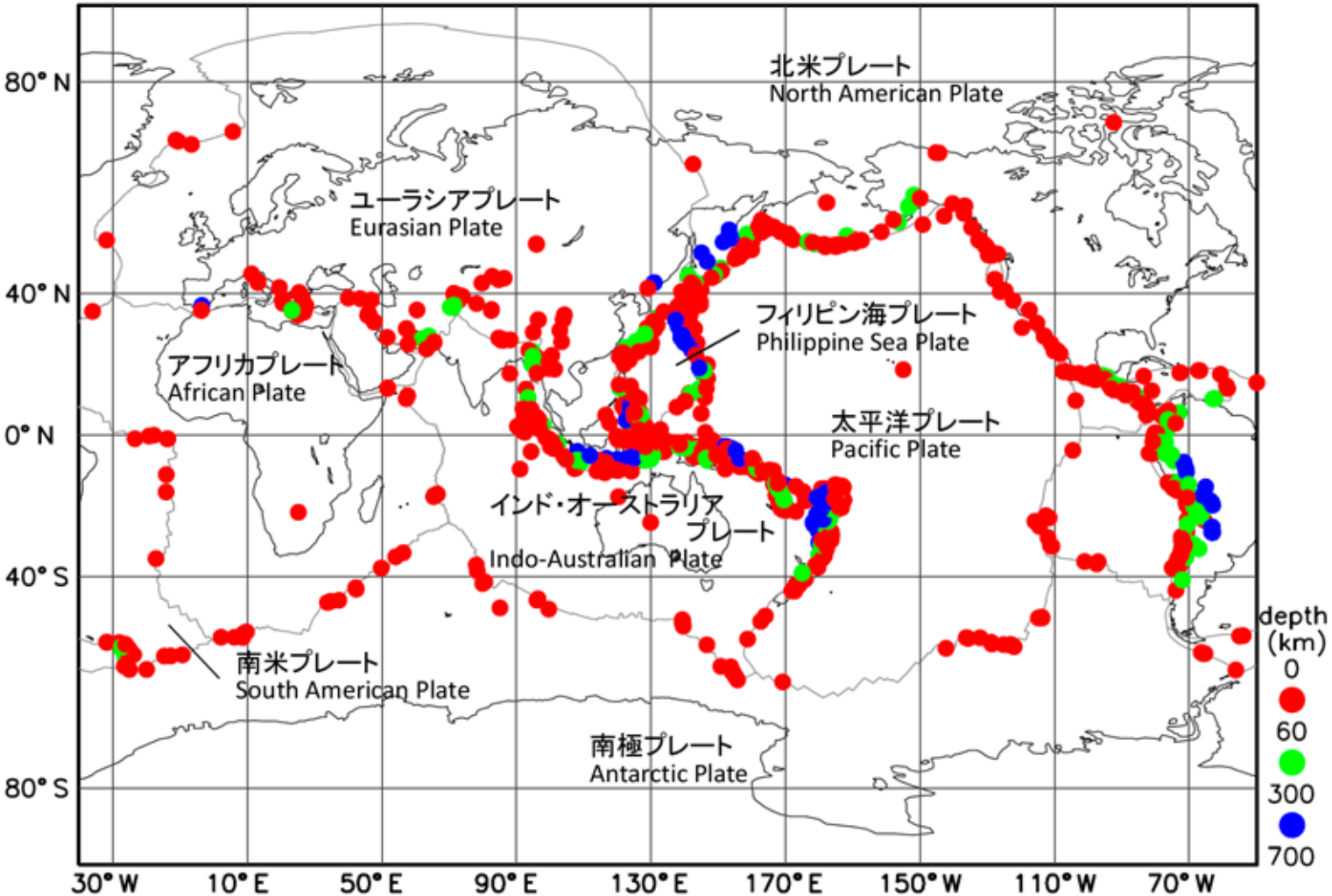
神奈川大学工学部建築学科教授
荏本孝久

内　容

1．はじめに ー災害の定義・種類と特性ー
2．自然災害 ー地震災害を例としてー
3．新型コロナウィルス感染症
4．地球温暖化＝気候変動
5．我国の災害環境と社会経済環境
6．日本の財政状況
7．まとめ

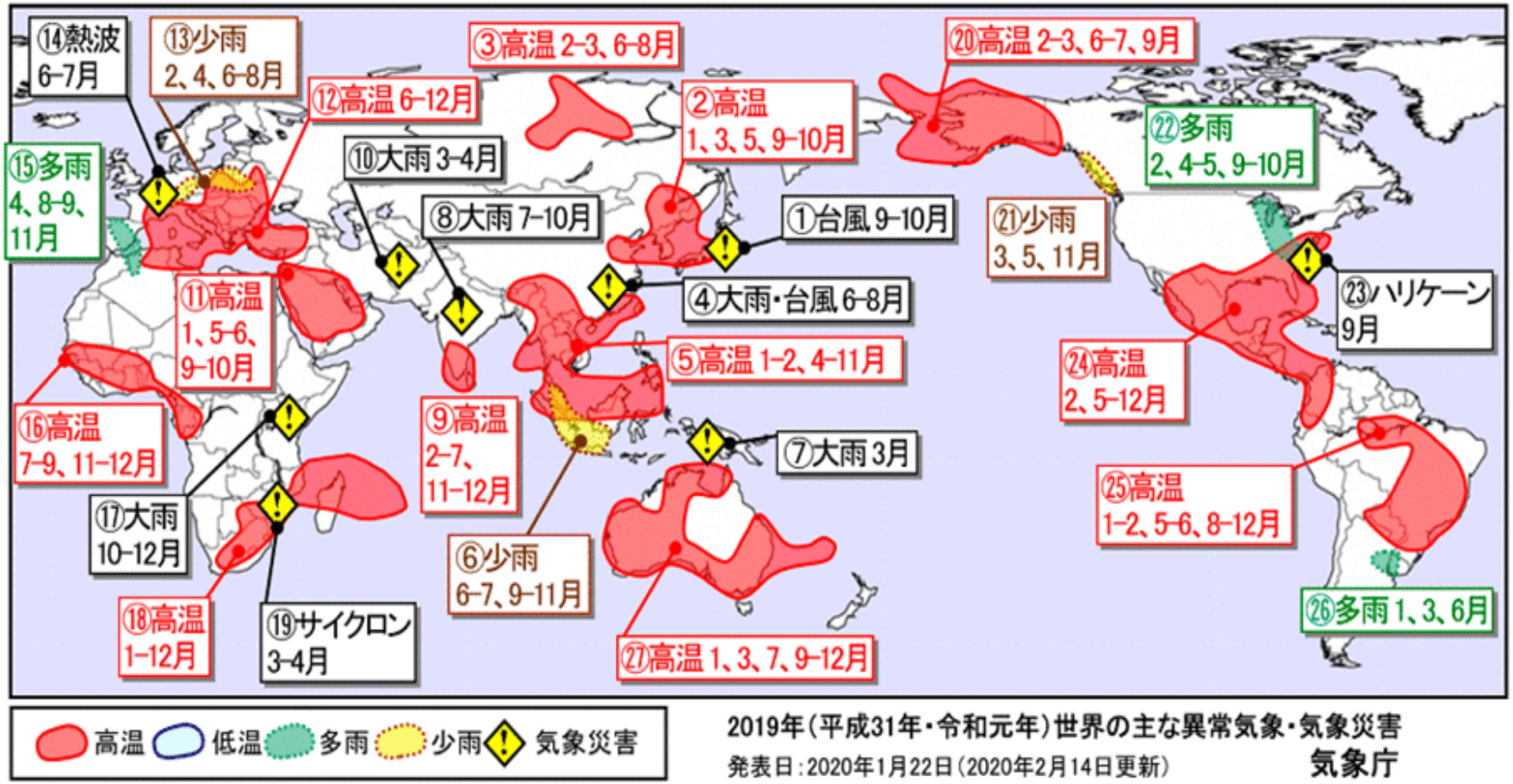
地震の発生場所

M6以上の震源分布とプレート境界



注）2010年～2019年
出典：アメリカ地質調査所の震源データより気象庁作成

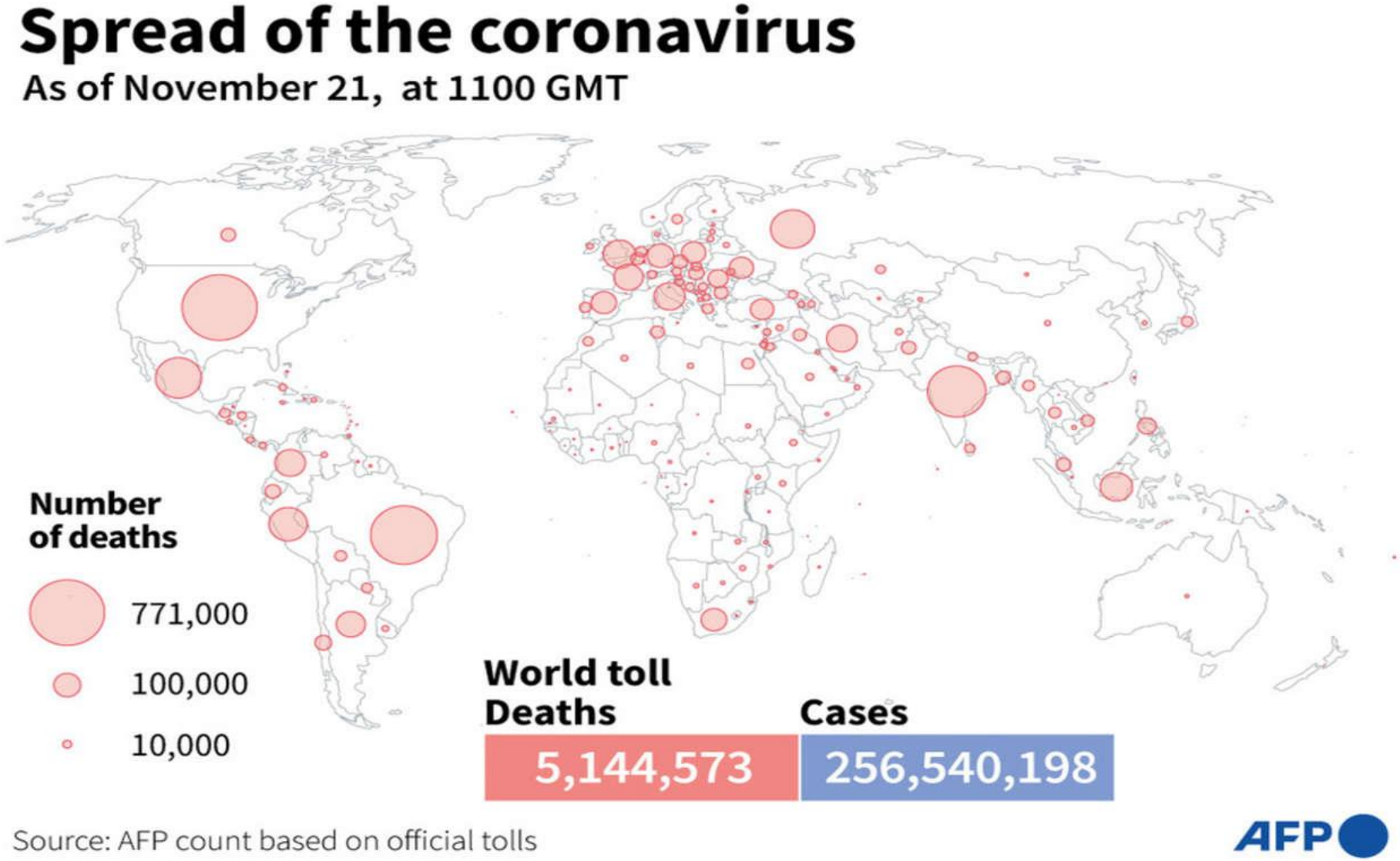
世界の主な異常気象・気象災害



出典：気象庁ホームページ
（参照：https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/annual/index.html）

令和2年防災白書より

新型コロナウイルスによる公式死者数



© Simon MALFATTO, Sabrina BLANCHARD / AFP

まとめ

- 改めて、日本は災害大国で自然災害環境の厳しい国である。
- 我国は、経済規模で世界第３位の先進国の位置にあるが、国債依存経済で、一向に社会経済状況が改善されておらず、財政上極めて厳し状況にある。
- 世界はグローバル化が進展し、経済的にも社会的にも繋がりが強くなっている。それに伴って災害もグローバルに展開する。
- 世界規模で、格差社会が進むと大規模災害が発生し、財政的に窮地に追いつめられると、世界的な協調は難しく、相互に救いの手を差し伸べられない。先進国も途上国も経済・財政状況が逼迫している状況では、自国のことを優先して他国への支援は難しい。

↓

グローバルな視点からの防災戦略の重要性
―災害共存社会の必然性―

まとめに

■初心忘れるべからず!!

市民主体の地域防災活動が重要＝

ハードな対策も重要だがソフトな対策の充実に尽きる

→これしかない

■今後の「防災塾・だるま」の活動＝鷲山新塾長体制に期待

前体制　→　防災情報の共有化と人的ネットワークの構築

↓

加速化する災害形態と社会の変化

↓

新体制　→　地域防災活動の具体的理念とその実践

防災まちづくりへの展開に期待

おわり

有難うございました。